

☆ ☆ 知って、守て、かえていく

- 2013.8.22 オ4号 -

ホームページも
みてね!
kodomo-mirai.
jimdo.com

こどもみらい通信

放射能から子どもを守る会・塩谷 090-5302-0162 岩間



去る5月27日、ジユネーブで開かれた国連理事会で、特別報告者、アンドレ・グローバー氏が原発事故の問題に関する日本政府に出した勧告が、世界中に配信されました。

塩谷町の皆さん

私は矢板の一主婦です。

福島第一原発事故は、台所を預かる私にとって耐え難い不安と政治不信をもたらしました。私にとって指定廃棄物最終処分場問題は事故の重大さに気付いたきっかけでもありました。

第1回『原発と放射能を考える座談会』では、そんな思いを抱える皆さんのお話を渡辺よしみ衆議院議員に聞いていただき、声を政府に届けることが目的でした。

そして第2回は、当初は塩谷町で住民の方に開催していただきました。隣町である塩谷町の放射能汚染は矢板と同等であること、どちらに処分場が出来たとしても被害は同等であることがその理由です。

しかし政府はすぐにでも同じ場所を再選してくるのではとの危機感があり、もう一度矢板で催すことになりました。どこに最終処分場ができるても子ども達への負の遺産になるとすれば、いったいどうしたら良いのでしょうか? これは、目を背けずに皆がそれぞれに考えて、そして話し合っていかなければならない問題です。

ぜひ塩谷町の皆さんもご参加ください! 意見を聞かせていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

この度、福田あきお衆議院議員をお呼びし、第二回「原発と放射能を考える座談会」が開かれることになりました。自分の中だけではなく、全体が良くなるにはどうしたら良いか: 自分達の世代だけでなく、先の世代が良くなるためにはどうしたら良いか: という視点で、多くの方と話し合えればと思います。

最終処分場について考えよう

第1回 原発と放射能を考える座談会
with 渡辺よしみ衆議院議員

2月23日、矢板市勤労青年不^レにて渡辺喜美衆議院議員をお呼びし、座談会が開かれました。矢板市内、市外から50名を越える沢山の市民が参加し、活発な意見交換が行われました。

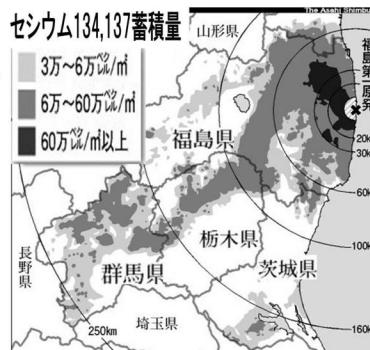
最終処分場について、宇都宮から参加された方は、福島第一原発事故による汚染マップを紹介され、「もし家中でうんちがばらまかれたならどうされ、^トもしさの中でうんちがばらまかれたならどうするか」と、うなづいたとえ核のゴミは拡散せない、人に近づけないと、いう基本的な原則を説明されました。

参加された市民からも、様々な意見が出ました。

「私は将来結婚もしたく、子供も産みたい。」

「国会議員の皆さんに、こんな若者の気持ちをわかって欲しくて、20代女性

○学校で使われている放射能に関する副読書は、原発を推進する団体から資金が出て作られていて、多くの教師が知らずに40代主婦がら子育てしている。チエルノブリの現状を正しく公表し、最善策をとて、原発のない世の中を作りたい。今まで一人で不安と戦ってきたが、こんな風に皆さんと考えられるのは、本当に嬉しく、強く感じます。」40代主婦などなど……



2月23日、矢板市勤労青年不^レにて渡辺喜美衆議院議員をお呼びし、座談会が開かれました。矢板市内、市外から50名を越える沢山の市民が参加し、活発な意見交換が行われました。

最終処分場について、宇都宮から参加された方は、福島第一原発事故による汚染マップを紹介され、「もし家中でうんちがばらまかれたならどうされ、^トもしさの中でうんちがばらまかれたならどうするか」と、うなづいたとえ核のゴミは拡散せない、人に近づけないと、いう基本的な原則を説明されました。

参加された市民からも、様々な意見が出ました。

「私は将来結婚もしたく、子供も産みたい。」

「国会議員の皆さんに、こんな若者の気持ちをわかって欲しくて、20代女性

○学校で使われている放射能に関する副読書は、原発を推進する団体から資金が出て作られていて、多くの教師が知らずに40代主婦がら子育てしている。チエルノブリの現状を正しく公表し、最善策をとて、原発のない世の中を作りたい。今まで一人で不安と戦ってきたが、こんな風に皆さんと考えられるのは、本当に嬉しく、強く感じます。」40代主婦などなど……

渡辺代は

子供と姫婿を守る法案を政府に提出した。

指定廃棄物は、福島第一原発事故により発生したものであり、それと各都道府県において排出されたとすることは明らかに誤りである。東電と国の責任で適切な処理をする制度に見直すべき。実際避難区域の人々の殆どが戻りたくない」と言っている現状をふまえ、汚染の酷い土地を国が借り上げ、土地利用を考えるべき。



との考え方述べられました。

その他市民から

「渡辺代自身、

事故の状況危険度をきちんと

把握してしまったが、

どうなアーネをお持ちなのか?」「最終処分場に関する政府対応の状況はどうとの質問も出ました。

残念ながら時間が足りず、もともと沢山の時

間をかけ、沢山の市民との話し合いが必要である」とを感じました。しかし、参加者の皆さんか

とお話ししました。

「参加者の皆さんか

とお話ししました。

「子供たちが安心して暮らせる社会を作りた」という思いで一致していました。

座談会後のアンケートからも、多くの方が最終

処分場建設による環境、健康への害を

されていくことが解りました。また「このような会を

今後も開いて欲しい」との声も多くありました。

「与党じゃなく、馬鹿だといふ人がいる。何と言っているんだ。野党だから物が言えるんだ!」

と演説された渡辺代。



第2回 原発と放射能を考える座談会



日時：2013年9月21日(土) 10:00～12:00

会場：矢板市城の湯ふれあい館 和室

矢板市幸岡18 TEL 0287-43-2115

ゲスト：衆議院議員 福田昭夫代
県議会議員 斎藤淳一郎氏

主催：原発と放射能を考える座談会準備委員会

申し込み・問い合わせ先：担当 井田 TEL 080-6544-2427

(留守電の時は、「座談会問合せ」とメッセージを入れていただければ折返しお電話いたします)

免疫力アップ試食会

座談会終了後、酵素玄米、発酵食品を使ったおつまみ、玄米コーヒーなどを温め、免疫力、排毒力を上げる試食会があります。ぜひご参加下さい!

(酵素玄米とは小豆と一緒に炊いた玄米を保温発酵させてしたもので、消化吸収が良く、赤ちゃんから食べられるご飯です)